

日本材料学会

強度設計・安全性評価部門委員会（仮称）

## 設 立 趣 意 書

### 1. 名 称

強度設計・安全性評価部門委員会（仮称）

( Committee on Strength Design and Safety  
Assessment )

### 2. 構 成

個人委員及び会社委員

### 3. 目 的

機械・構造物の経済性・安全性，信頼性向上に対する要求は益々厳しくなつてゆく社会情勢に鑑み，材料特性，強度評価，応力解析，応力測定，外力推定，信頼性解析などについての先端的研究成果を現実の問題に効率的に Build up し，応用できるようにすることが非常に重要であるとともに，益々細分化，先鋭化する工学分野の研究活動においてもその効率化，方向づけ等に対して益することが大きいと考えられる。

さて，日本材料学会において，材料特性，強度評価，応力解析，破壊力学，信頼性解析，衝撃，応力測定などを専門とする会員も多く，沢山の成果が発表されていることからこれらを現場の設計問題への活用を計るとともに，現場における Needs についての情報交換を活発に行うことは，会員の研

究活動や設計活動に益するばかりでなく，研究の効率化に役立ち，かつ会員の増強にも役立つものと考えます。

上記の状況に鑑み，現場における Needs，研究分野における成果についての情報交換と，とりまとめを行い学理と実際を結びつけることを主目的に，下記に示す活動方針のもとに委員会を運営し研究の Seeds の発掘に努める。

#### 4. 活動方針

本委員会は材料学会員からなる，大学，公官庁及び企業の研究者，設計者からなる委員により構成し，

- 1) Up to date な Needs のとりまとめ
- 2) 研究成果の 体系化（応力解析，疲労，クリープ，腐食疲労，衝撃，疲労き裂進展，応力測定結果，事例，統計資料等）
- 3) 上記成果をふまえた具体的な部材の評価  
（軸，歯車，ボルト，翼，ピストンクラウン，タンク類，溶接継手，これら部材を組合せた単純な機械類から複雑な機械への展開）
- 4) 当面は鉄鋼材料を主体に活動するが，新材料の成果も逐次とり入れる。

を主テーマに委員会及びワーキンググループによる活動を行う。

委員会は年 3～4 回開催し，2 年位ごとにその成果をまとめて関係者に報告するとともに，関連部門委員会との協賛のシンポジウムを開催し，活動成果を公表する。